
残されたモノ

野脇幸菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
残されたモノ

【Nコード】
N3419F

【作者名】
野脇幸菜

【あらすじ】
突然同棲していた彼から別れのメールを受け取って…。

彼は

「別れよう」というメールを残してこの部屋を出て行った。

そんなメールを見て話を聞きたくて急いで家に帰って来たのに、彼の物は何も残ってなかった。

彼の物それはこの部屋で同棲する前に持ち込まれた物。

色違いの二人で買ったマグカップや歯ブラシ、鍵などは残っていた。

そのメールを見てすぐに電話したけど通じない。

メールも届かない。

拒否設定されてるのかな。

いつもと同じ朝をむかえて家を出た。

そして、いつもと同じ待ち遠しい気持ちで私はこの家に帰ってくるつもりだったのに。

彼は違った。

浮気もしてないし彼にもそんな様子はなかった。

なぜなんだろう？

理由も告げられずに私の気持ちを变えることはできないよ。

涙も出てこない。

さあーと何か体の中が冷えてく感じ。

びっくりして心臓がきゅーって締め付けられて、いつかはじけてしまいそうな気がする。

体がフワフワして立っていらなくなりそうでベッドに倒れ込んだ。

彼の匂いがする。

落ち着く。

離れたくない。

消えないで。

眠ってしまった。

もう朝だ。

仕事に行かなくちゃ。

彼が戻っている様子はない。

二日酔いでもないのに頭が痛い。

体がだるい。

全てが重い。

顔でも洗おう。

洗面所で彼の乾いている歯ブラシを見つけた。

早起きの彼はもういない。

乾いているブラシが彼の心を代弁しているようだった。

私はとっさにそれを手に取って、サッと水にぬらして口に入れた。

彼の匂いがする。

彼のブラシを私は平気で口に入れることができるのに。

その姿を鏡越しに見つめながら私はおかしく思った。

彼が見たら気持ち悪がるのだろう。

引いてしまっただろう。

その差を思うと涙が出てきた。

私は歯ブラシを抜くことができないのに。

(後書き)

読んで下さってありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3419f/>

残されたモノ

2010年12月10日21時19分発行